

「野々市」の地名来歴

1 「野市」

1312年・1354年：白山本宮の水引神人の記録「野市石河也」「野市」

1505年：本願寺9世実如「石川郡野市」の若松本泉寺門徒某に阿弥陀如来絵像を下付

近世初期の軍記「官知論」に「野市馬市」とみえる。

2 「野々市」

1369年：北朝方の得田章房が、桃井氏と「野々市」で交戦。

1486年：聖護院道興は「野の市」を通過したとき、

「風おくる 一村雨に 虹きえて のの市人は たちもをやます」

1536年：野々市二十八日講が綿を本願寺に上納。

1562年：野々市住人の友重三右衛門尉が土地を売買

1574年：高山市高山別院照蓮寺の棟札に「大工加州石河郡野々市桑山新右衛門尉藤原長宗 権大工同子息惣五郎」とある。

3 近世の野々市村

1605年：慶長国絵図写では本町付近に「両横町 野一 本町」と記載。

1670年の村高3334石 →明治9年野々市新村（三馬村）が分村。

1880年頃の米の産額は、約4450石。

*近世の野々市村は宿駅（小名：荒横通、北横通、一日市通、中通、六日通、西通、南通）。江戸後期に馬市を再興。

4 「布市」

1615年：「布市村肝煎・惣百姓中」あてに「宿送人足伝馬之御印」が伝達される。

1913年：大正2年富樫郷住吉神社を布市神社と改称。

◎「野々市」は14世紀以来、歴史上使われた地名、とくに守護所（富樫氏）のある地名として全国的に周知された。

◎ 北国往還と「白山大道」（白山本宮＝白山比咩神社と金石を結ぶ）の交差点にある市場集落。交通の要衝地であることから紺屋など商工民が集まる。